

琉球群島に於ける古賀氏の功績

(其七)

▲列島の交通發達 同列島に於ける事業漸く其の緒に就くと共に本島との交通も従つて繁劇を加ふるを以て他の借入船及び同航船などで依頼するは不便不利尠からざるを以て同島より運糧を運送せしむる爲め汽船の購入を企圖し明治三十九年十一月臺灣總督府所有船三號丸(百四十五噸)を購入し之を辰島丸と改稱し列島との交通運糧に供したり

▲新事業の計畫 其の後明治四十年珊瑚採収、島の製造及び牧畜の業に着手し成績の如何は未だ事ならずと雖も頗る有望の事業なるべく尙同列島には野生の桑樹甚だ多きを以て今年年中には養蠶を試むる計畫あり

▲肥料製造 又同列島附近の海洋は四時魚族群集し恰も其巢窟なるが如きの觀ありて兼て氏は是等魚肉の罐詰製造を兼営し去る四十一年四月、磯崎尻水産學校卒業生一名を僱物し且つ同校教授岩井氏の渡島を乞ひ指導を仰ぎたるに非常に効果あるべしとの報告ありたるを以て是迄「アシナシ」其他海鳥の肉は油を搾り残滓を肥料に供したりしが岩井氏の案に依り罐詰に製造するの有利なるを認めれば茲に罐詰製造を始むるの計畫を爲すに至れり

▲礫質土壌の探査 氏は兼て該列島の土壤が礫を含有し屢も知り明治四十年三月、同列島山笠督署に探掘出願書を提出せしが翌四十一年二月と京し農學博士恒藤規氏に商議し礫石の検査を乞ひたるに同年五月博士自ら實地踏査の爲め列島を探檢し其結果南小嶼に於ける礫畑の土壤中に多量の磷酸(二五パーセント以上)を含有せることを發見したるが同博士の説に依れば右磷酸は全く島土より成りしものにて降雨の頻繁なる爲め島土中の磷酸並に硝酸の多分は雨水の爲めに流失するも雨露に曝されざる洞穴岩隙等に堆積せしものは其儘に保存されて肥沃なる土壤を成したるなりといふ而して此種の土砂南小嶼のみを採集するも數千噸を得る事容易なるを以て北小嶼水禽群接の個所を採集する時は一層多量の肥料を得らるべし加之博士は更に黃尾島に於て鳥糞の堆積層を發見したるが近來黃尾島は火山質の岩石並に玄武岩の崩壊したるものより成り土壌非常に酸軟性に富み且つ全嶼には晴天翁の虫食すること非常に多く又「カドコロ」は地中に穴を穿ちて其巢を營み夜は必ず其巢中に眠るを以て峭と數十萬の鳥の巢が出來従て鳥糞の積層物は地中に堆積し臺地肥沃なる土壤を以て産はれ其爲めに芭蕉又は唐芋の如き徒らに繁茂し解るのみならず實を結ばざる有様なり然れ共全嶼は降雨の頻繁なるが爲め是等夥多の鳥糞は漸次に洗ひ去られ其山中にあるものの如きは樹蔭葉を以て掩蔽せられたる箇所の外は肥料と

して用ふるに足らずして只沿岸地帯の周圍は一帶の草原繁茂し其草葉は積て二三寸の層を成し「カドコロ」は其中に無數の巢穴を穿ち居るを以て此の草原一帶の土壤のみは同恒藤博士の意見に係る鳥糞層にして土色暗黒脂肪光澤を有し一種の臭氣あり之を火中に投ずれば煙と臭氣とを發して燃焼す博士の説によれば南洋諸島より輸入する「グアノ」と同一にして本邦に於ては比類なき好肥料なりといへど未だ精密なる分析と測定とを終へざれば精確なる所は明かならざれど右草原の面積は約五萬坪鳥糞層の厚さ約二尺乃至三尺あり尙品質稍下る部分に至りては頗る廣く面積に亘れりといふ於茲古賀氏は餘りに計畫を立し探掘に従事せんと全て居れり

1910.1.9
(2) 沖毎